

「美しい」につづいて「1」

美とはなんだろう？

？じつと考えてみよう

玲子（れいこ）、翔太（しょうた）、夏穂（なお）の3人は、美術の授業で「あなたが最近『美しい』と感じたものをいくつかあげなさい」という宿題を与えられました。その宿題について放課後話しています……



玲子… わたしはまず、なんといっても、これ（ファッション雑誌を開く）。

大好きなモデルのMAYAKOよ。どう、彼女の「美しい顔」「美しい髪」「美しい脚」「美しい服」、どれも文句なしにカッコイイでしょ。

夏穂… わたしは、そうだなあ、旅行で見た「美しい風景」とか、野草の花びらに見つけた「美しい模様」とか。

翔太… 「美しい」とって言葉で男子はあまり使わないんだな。でもそういえば、書道の先生は、「美しい字は、美しい姿勢から」とってというのが口グセだ。

夏穂… そうかあ、「美しい」とって、なにも物にかぎらないということか。姿勢は物じゃないから。

玲子… 最初にバイオリンの曲を聴いたとき、「音色が美しいな」と思った。これも物じゃない。

翔太… だったら、サッカーやっているとにも出るね。「あれは美しいプレーだね」とか、「きれいなシュートだった」とか。

□ あなたが最近「美しい」と感じたものはなんでしょうか？
3
つあげてみましょう。

ここでは美しいを広くとらえて、きれい、カッコイイと置き換えてもいいでしょう。

そして、あなたはそれらのなにを美しいと感じたのでしょうか？

さて、あなたは「美しい」と感じたものになにをあげたでしょう。

玲子がファッションモデルを例にしてあげたのは、人の容姿や服装についての美です。目についた物体の色や形をきれいというのは、もっとも一般的な「美しい」です。そうした外見の美については、ほかにも「自動車のデザインが美しい」とか「美しく印刷されたポストカード」「造型が美しい建築」などのように言えます。

夏穂があげたのは風景や花の美しさです。自然には美しいと感じるものがたくさんあります。富士山や夜空に横たわる天の川のように雄大な美もあれば、小さな花の模様や、顕微鏡で見られない結晶の規則的な配列など微小の美もあります。

翔太は姿勢の美しさを行っています。物以外にも美があります。姿勢はしぐさや振る舞いといった動作的なことです。動作的な美がだんだん洗練されてくると、技（わざ）の美になってきます。「美しいプレー」とか「きれいなシュート」もその種類です。ちなみに、動作の技を美として芸術的に追求していくものに、能や歌舞伎、茶道などがあります。

また、美しいは見て感じるだけではありません。「美しい音」のように耳で聴く場合もあります。あるいは舌で味わう場合もあるでしょう。食べ物が「おいしい」を、漢字では「美味しい」と当てます。



このように「美しい」とは、物や人の外面にあらわれるなにかについて言うことが多い。ところが、わたしたちは人の内面にも目を向けます。内面が澄んでいて、善いことをすすんで行う人のことを「あの人は心が美しい」と言います。人の内面は目に見えませんが、目に見えないものを心で美しいと感じるのです。



さて、ものごとが美しいと感じるとき、わたしたちはそこからなにを感じ取っているのでしょうか。——それはおそらく、ものごとが持っているなにか「良いこと」であったり、「すぐれていること」であったり、あるいは「善いこと」、「生きる力の根源に近いか」こと「ではないでしょうか。

ここでの「良いこと」とは、たとえば、快さを与えてくれる、清らかである、整っている、秩序があるなどのような状態をいいます。そうした性質・状態が美しさに通じているというのは、次のようなことを想像するとわかりやすいかもしれません。

○快さを与えてくれる

↓ ショパンの作ったピアノ曲の旋律は美しい

○清らかである

↓ 山の雪解け水が集まって川をつくる。そのキラキラとした流れは美しい。

○整っている

↓ 朝礼の列が縦横にぴしっと整っていると美しい。

○秩序がある

↓ 機械式腕時計の裏ふたを開けると、小さな部品が秩序をもって正確に動いている。それは美しい。

○ うっとりさせる

↓ その国民的アイドルは美しい顔だちで多くのファンを魅了した。

○ 理にかなっている

↓ 鳥が飛ぶ姿は美しい。それは自然の法則にさからわない無駄のない動きだから。

○ 機能的である

↓ 扇子（せんす）は広げれば風を起こす大きな形となる。そして蛇腹（じゃばら）折りにして棒状に収納できる。この機能的な形は美しい。

また、「すぐれていること」というのは下のような性質・状態のことで、これもまた美しさに通じています。

○ 能力がたくみに発揮されている

↓ 何十年もの修行を積んだ職人さんの手の動きは美しい。

○ 研ぎ澄まされている

↓ アインシュタインの論文は明晰で、導き出された法則の数式は美しい。

○ 品格がある

↓ この書は実に美しい。書いた人間の気高い精神が込められている。

さらに、「善いこと」というのは次のような性質・状態のことで、美しさに通じています。

○ 正しい

↓ 発展途上国に渡り、死ぬまで学校建設に献身した彼の生き方は美しい。



「生きる力の根源に近いこと」というのは次のような性質・状態のことで、やはり美しさに通じています。

○ 生命力に満ちている

↓ 春の若葉の輝きは美しい。

○ 懸命である

↓ ひたむきに努力する彼の姿は美しい。

○ 不可思議である

↓ なんの力がこの微細で美しい雪の結晶をつくるのだろう。

○ 超然としている

↓ この無限の宇宙に広がる無数の星々は美しい。

14歳から
大人まで

生きることの根っこを考える

ふだんの哲学

Philosophy for Everyday Living

『ふだんの哲学』は、中学生から大人まで読んでいただける思索のための小話集です。

学問的な哲学ではなく、ふだんのできごとのなかからふかく考える種を見つけ、

ふだんに（不断に＝絶え間なく）心を健やかにしていく内容をめざしています。

ほかにもシリーズ記事がプロジェクトサイトにありますので、是非のぞいてみてください。

*本記事は営利を目的としない教育用途であれば、個人や学校・各種グループにおいてご自由にお使いください。

「ふだんの哲学」ウェブサイト

<http://careerscape.lekumo.biz/tetsugaku/>

村山 昇 (info@careerportrait.jp)

サカイシヤスシ (info@lantadesign.com)